

# 分析の視点

以下の3つの視点から、デフレ（物価水準の下落）が国民生活に与える影響を考察

1．長期化するデフレは自分の生活にどのような影響を与えているのだろうか。一方では、海外に比べて高いモノの値段が下がり、今までよりもモノがたくさん買えるようになるのでデフレは良いことだと言う人がいる。他方では、経済が長期にわたって低迷し、知人が失業したり自分の給料が下がったりするのはデフレのせいだと言う人もいる。デフレに対していろいろな見方がある中、第1章では、デフレが私達の生活にどのような影響を及ぼしているのかを整理しわかりやすく示す。

2．デフレが進行し、経済の低迷が長引くとともに、若年の就業環境は厳しさを増している。失業者が増加しているほか、正社員が減少しパート・アルバイトとして働く人が増加している。そのため、若年の職業能力や給与水準が高まらず、若年本人の暮らしが不安定になり、社会不安や生産性の低下が生じるのではないかと懸念する人がいる。一方、若年の失業やパート・アルバイト労働は、若年自らの希望によるものだから問題ないという人もいる。若年雇用問題はどの程度深刻な問題なのだろうか。第2章では、若年雇用の悪化の現状と要因、その問題点と対策を検討する。

3．デフレ下の経済の低迷で若年の雇用は悪化し、その経済基盤が弱くなっている。かつては結婚し、親から自立して暮らすのが一般的であったが、所得が低下しているために経済的に自立することが難しくなっている。そのため、結婚して無理に自立するよりは、結婚せずにできる限り親に頼り豊かな生活をするを選ぶ若年が増えていく。また、家計を助けるために夫婦で働くケースも増えており、既婚女性の家事や育児の負担が高まっている。第3章では、若年の雇用の悪化が、消費、結婚、出産などの面で若年の家庭生活にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにする。